

# 三浦綾子読書会会報

発行:三浦綾子読書会  
代表:森下長由  
e-mail:shioakaripass@gmail.com

題字:三浦光世

## 巻頭言

## 「編み込まれているもの」

北見三浦綾子読書会 日吉 成人



三浦綾子読書会

『綾果』が届きましたー！素晴らしいです。類ずりしたいほど愛しいです。本当に感謝です」  
2019年10月7日、森下代表の携帯メールから遠藤優子先生と私に届けられたメール本文の書き出しです。類ずりしている様子を想像してしまいました(笑)、抱きしめたいほどに愛しい気持ちには、全くもって同感なのです。

ある美談のペンションで、第二回講師養成講座が泊三日で開かれました。牧師の名、教員の名、学芸員1名、そして文学館の案内人をされている主婦2名が、推敲してきた原稿を発表しました。私を含めた牧師、そして教員や学芸員の皆さんの発表は、例えるならば、お洒落な洋服のようです。センスがあり、エッセンス、磨き込まれたと思えます。「売れていますー」といいます。「売れていますー」というポップの文句を裏切りませう。発表を聞きながら「そうだなあ」とうなずき、多くを教えられました。

比較するのは変なのですが、要囚人をされている主婦が一人の発表は、母さんが夜なべをしながらせせと編んでくれたものに例えられるでしようか(かあさんの歌)が流れてきそうです。どこにも売っていない、とても懐かしくて、ホッと、体も心も温まり、世界に一つしかない、特別な思いが込められた編み物のようなのです。

その主婦お二人の一人目、近藤弘子さんの「四〇年前に読かれた『泥流地帯』の種」が、『綾果』に掲載されている最初の作品です。「泥流」については、根こそぎにされる。私も根こそぎにされ、ブルドッグだったんで、だから「泥」の本を読んだ時、鳥泣するほど感動できたんだ!!と思うのです。「この頃私が酒乱の父のおかげで旭川に来ることができたー」と思うようになります。「三浦綾子さんを人生の味わいとして噛みしめてきた思いを多くの方々に伝えたいという思いから、『綾果』が刊行されました。創刊号は30冊しか刷っていませんが、まだ残部はあるだろうので、手に取って読んでほしいな。あなたもぜひと類ずりしたくなるとしようー。そして、講師(語り手)養成講座に参加してみませんか。

今年4月、大雪山のふもとに「綾果」の「綾果」が誕生しました。読書会が誇る研究部門の原稿が加わったこと、『紀実』としての味わいを豊かにしています。  
その主婦お二人の一人目、近藤弘子さんの「四〇年前に読かれた『泥流地帯』の種」が、『綾果』に掲載されている最初の作品です。「泥流」については、

**「綾果」購入希望の方は……**  
三浦綾子読書会紀実「綾果」-創刊号-  
2019年10月19日(三浦綾子読書会発行)  
B5版188頁 1冊700円(税なし)  
購入希望の方は、森下まで！  
luc2342@ezweb.ne.jpまたは090-2058-5978  
送料は購入者負担。  
会報同封の郵便振替用紙でお支払いください。